

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム海津 福寿苑
(ユニット名)	西 ユニット
所在地 (県・市町村名)	岐阜県 海津市 海津町 福江 627番地
記入者名 (管理者)	伊藤 尚子
記入日	平成 19 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域との関係性を支えるための具体的なイメージを表現した理念を見直してゆきたい
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		玄関ロビーやタイムカード付近に理念をかかげ、会議においても理念を確認し合う事で意識付けを図っている
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の方向けの情報紙を発行し地域の方に伝えてゆきたい
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		自治会との交流を深める為、人間関係のパイプラインを確立してゆきたい
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今後も地域の中学生『体験学習』を受け入れ、交流を深めてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会の時に地域の方へ役立てる事がなくないか相談している		左記の内容に対して、具体的に実践出来ることから取り組んでゆきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議においても外部評価について話し合い、改善項目に対する策を考え取り組んでいる		サービスの質の向上にむけて改善すべき事を職員全員で話し合っけてゆきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出された意見等について職員に伝達し前向きに取り組んでいる(職員会議時に報告)		定期的に運営推進会議を行い、出された意見をサービス向上に活かしてゆきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護認定更新時には、市町村から調査に来て頂き、利用者の状況や事業所のサービス状況について話合えている		市町村担当者が変わられるが、関係づくりに努め、今後も共働関係を継続してゆきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護に関する研修に参加し、職員会議時に勉強会を行った。		今後左記に制度を必要とする利用者があった場合は、それらを活用出来るよう支援して行きたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の研修を受け、その内容について職員への虐待防止の徹底を図っている		虐待防止関連法について、職員の周知徹底が図れるよう随時勉強会等を実施してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約解約時は特に利用者や家族の不安を取り除く事に細心の注意を図りながら連携をとっている</p>		<p>利用者や家族が抱えている不安や疑問を引き出し、ケースに応じた個別対応にも十分配慮してゆきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関口に意見箱を設置。それぞれの利用者の意思表示のシグナルを探りながら、思いを察する努力をしている</p>		<p>利用者本位のケアがなされているか、ユニット内で話し合い、日々のケアに活かしてゆきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりについては、便りや写真を発送し、健康状態の変化については、電話で報告等連携を図っている</p>		<p>家族が訪れてみえた機会は利用者の暮らしぶりや心身状況についてきめ細かく報告するように心がけてゆきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時には、何でも言ってもらえる様な雰囲気づくりに心がけ、出された意見については、会議の中で話し合い反映させている</p>		<p>家族等が意見・苦情を言いやすい雰囲気づくりを今後も心がけてゆきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議や食事会時など職員の意見を聞いてくれている</p>		<p>職員の意見や提案を聞きだせるよう日頃からのコミュニケーションを大切にしたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出支援時は、余裕を持った人数を調整しボランティアや家族の協力も集まっている</p>		<p>今後も要望に柔軟な対応が出来るよう積極的に取り組んでゆきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や離職は最小限に抑えるよう考慮してもらっている。基本的に担当ユニットをもち顔馴染みの関係でケアを行っている</p>		<p>利用者のダメージを防ぐ配慮を続けてゆきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格獲得希望に対して激励してくれている。研修への参加も勧めて頂いている		現場内においてもお互いが専門知識や技術を向上できるよう
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内におけるグループホームを訪問したり事業所管理者同士の交流も行いながらサービスの向上をめざしている		地域むの同業者と、交流の機会を持ち、協働しながら質の向上を目指してゆきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩方法については、スタッフとの話し合い各自の気分転換方法でストレスの解消を図っている		今後も日常的に職員一人ひとりが抱えているストレスを理解出来る様努めてゆきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実地を行い、健康保持に対応している。また職員の資格取得を応援し手当をつける等向上心を持って働ける環境づくりに努めている		更に職員が向上心を持って働ける労働環境づくりに努めてゆきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には、極力本人にも訪問して頂き納得して頂けるよう、又、安心して入所頂けるよう信頼関係づくりに努めている		事前面談で必ず本人に会って話をよく聴く機会をつくり、思いや不安を理解するよう努めてゆきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族のご要望に添えるケアを出来るよう、又、当ホームにおける対応システム等を説明し安心して利用頂ける様努めている		家族が求めている事を理解し、事務所として出来ることを、事前に話し合い、相談してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人の身体状況でホームの良好な受け入れ体制時期の調整。他のサービス利用についても検討し対応している		他の事業所のサービス内容等の状況を把握したり連携を図ってゆきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来て頂いている。入所時不安の程度を考慮しながら家族や友人等に来ていただけるよう声を掛けています		入所前から徐々に馴染めるように配慮してゆきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の暮らしの中で助け合い職員がいたわってもらう場面もみられる		利用者と介護者が共に支え合うことを念頭におき、良好な関係が保てるよう心がけてゆきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所前の介護の様子や思いを把握し利用者の支援方法について職員と共に考えていく関係を築く努力をしている		利用者の様子や職員の利用者に対する思いを伝える事で、家族と職員の協力関係を築いてゆきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の訪問時は、日頃の様子を報告したり、本人と家族がゆったりとした気持ちで対話できる環境をセッティングする様配慮している		家族と利用者が共に過ごされる大切な時間を配慮してゆきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡を取り持ったり、家族の協力を待って行き着けの床屋さんへ出かけて頂ける様働き掛けている		一人ひとりの生活習慣に配慮してゆきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の仲の善し悪しを配慮すると共に一人ひとりの感情の変調を把握しながら円滑な関係が保てるよう努めている		日常生活の中で、職員と利用者同士が共に過ごし職員が調整役となり、円滑な人間関係を支えてゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了となっても、その後の相談にのっている。		契約終了時にも継続的にかかわりを必要とする利用者や家族に対しても事業所としてフォローしてゆく姿勢を持ってゆきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の表情や言葉などから思いや意向をさっすよう努めている		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人から少しずつ聞き取るよう努めている		担当スタッフが中心となり、把握に努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを記録に残して把握するよう努めている		現状の把握を継続的に意識しながら、支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意思を聞き、チームスタッフでも話し合い介護計画の作成に活かしている		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に身体機能の一般的な低下時などはその時の状況に応じたケアを記録してはいるが、プランニングまでにはたどりついていない		現状に即した計画が立案されているかを随時考え、見直す習慣づけを図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録により職員全員は利用者の現状を把握している。変化があった時は、申し送り(記録・口頭)で確認している		利用者の現状把握の為に、大切な記録の充実を心がけていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院などの支援を行っている。特別な外出・外泊を支援している。		当事業所ならではの、柔軟な対応をめざし、個別の要望に答えられるサービスを提供していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館で本を借りたり、職員と共に消防訓練や避難訓練に参加し協力して頂いている。		行事計画を立て、地域資源とかかわる機会をつくりたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人希望・必要に応じ、訪問美容サービスを行っている。地域の行事や運動会などにも参加している。		利用者の状況や希望に応じて生活支援に結びつくサービスを受けられるよう支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが中心となっているケアマネジャー会議することを機に周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築けるようになった。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回掛かりつけの医(ほとんどの利用者)の往診を受けている。それ以外にも疾患に応じて複数の医療機関に通院支援している。		今後も本人や家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医は隣接した所にはないが、地域医療に熟練した経験のある医師の指示に基、困難事例に対しては、精神科・心療内科に受診する等状況に応じ、家族とも相談しながら適切な治療が受けられるよう支援している。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、日頃より利用者の健康管理や状況変化に応じて支援を行える体制が確保されている。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。介護機会と看護職と実践していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはサマリーにより利用者の情報提供をし、頻繁に見舞い顔馴染みの関係を保つように努めている。病院関係者との情報交換に努め速やかな退院支援をアプローチしている。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	継続的医療を行わない前提のみとりを行うことについての説明を行っている。終末期・重度化に伴い意思確認を作成し、対応方針を定めている。		重度化や終末期に向け方針を本人・家族・医療機関・職員が、共有しながら対応していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意思を踏まえ、納得した最期が向えられるよう随時意思を確認しながら支援している。急変時には、すぐ対応して頂ける医療機関の連携も図っている。		重度化や終末期に、事業所として出来る支援を検討しながらチームケアを目指していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続が損なわれないよう情報を提供し、きめ細かい連携を心がけている。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全体会議(パート)全員が一人ひとりの声かけや、どのようにすれば本人を尊厳を傷つけずに生活して頂けるか話あっている。</p>	<p>適宜・接遇に対する自己の振り返りを行い、利用者の尊厳を守り通す意識づけをしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人に対してスタッフは、ゆっくり丁寧に声かけし、幅広い選択肢の中で出来る限り自分に合ったライフサイクルが営めるよう努めている。</p>	<p>自己決定できる場面づくりに心がけていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>スタッフは利用者のペース・体調に合わせて日々穏やかに過ごして頂けるよう配慮している。散歩やリクリエーションなどの支援をしている。</p>	<p>本人がその日をどのように過ごしたいか思いを引き出し、その方のペースを大切に支援していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>なじみの美容院に来設してもらったり家族の協力を得て望む店へ行かれる人もいる。</p>	<p>その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう努めていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人の好みに応じた食材や調理方法を多く取り入れ栄養の偏りがないように工夫している。利用者さんにも出来る方・やりたい方には、積極的に働いてもらい、片付けや準備なども一部ではあるが助けて頂いている。</p>	<p>今後も左記の内容に取り組んでいきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人が好まれる食品を考慮しながら病状等を踏まえて楽しめるよう支援している。</p>	<p>その方の状況に合わせた嗜好を楽しめるよう支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全体会議や会議で、排泄のパターンを知り過用にならない様、慎重に自立へ方向へ持っていくよう支援している。		きめ細かい本人の心情を把握しながら支援していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り本人の希望やタイミングを合わせ安心して入浴を楽しめるよう支援している。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠状況や体調等を考慮し一人ひとりに合わせた休息を支援している。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに出来ることを把握し、生かせるよう話し合い実現に向けて協力している。アプローチシートを活用している。		アプローチシートの項目内容を見直しながら、本人の無理のない範囲で支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族とよく話し合い、希望や力量に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、スタッフと共にホームの外を散歩し気分転換出来るよう支援している。		日常的に利用者の希望にそった外出支援を実践していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の移り変わりを感じて頂く為に、花見や紅葉狩りに出かけている。家族の方と過ごせるよう事前に日付の調整を行っている。家族間の行事に参加できるよう、体調などの把握も慎重に行っている。		出かける機会を積極的につくり支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。		今後も希望に応じて対応していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には、笑顔であいさつを心がけている、コーヒーやお茶を出しおもてなしをする事で、ゆったりとした時間を過ごして頂けるよう工夫している。		訪問者が居心地よく過ごして頂けるよう心がけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	左記の具体的な行為について、勉強会を行い、集団拘束をしないケアに取り組んでいる。		身体拘束しないことへの意識付けをするために随時話し合っていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けない。黙って外へ行きそうな利用者には、必ず声がけし、一緒に付き添っている。居室の場合＝夜間、鍵をかけず、話し相手になったりスタッフの目の届く場所に移ってもらう。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員には利用者と同じ空間で記録を行い、日中は必ずフロアーに見守っている職員がいる。夜間も見守りしやすい所で待機しており24時間利用者の安全に配慮している。		今後も利用者が安心して暮らせる環境づくりを目指していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(薬・石鹸)について一人ひとりの状態に応じた保管・管理を行っている。		注意が必要な物品は何であるかを職員間で検討して対応していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一の重大時(火災・災害等)の場合、どのように対応するかシュミレーションを行っている。スタッフは利用者の状態変化に対応出来るよう気を配っている。		日頃から事故防止にむけた対応を意識づけ出来るよう情報交換したり、勉強会を行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変の対応などは、会議で話し合い、スタッフが迅速に動けるよう指示と意識管理を怠らない。年一回、消防により蘇生法・避難・初期対応についての講習を受けている。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の通報・連絡方法や避難経路の確認は、定期的に会議で確認し方法が的確かどうか話しあっている。		地域の人とも協力体制をつくれる関係づくりを行ってきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクについての把握に努め、家族への説明が行えている。尊厳のある暮らしを支援させて頂く為の対策を話し合っている。		安全面での配慮や自由な暮らしの大切さ等、家族と話し合いながら支援していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルを測る際とスタッフの申し送りで体調の良し悪しを確認している。排泄時や入浴時等でも体調・体の表面などに変化がないか確認している。		体調変化の早期発見に心がけ対応していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について職員が把握できるよう、見やすい所に対処箋を置いている。与薬時には必ず職員が見守り介助し確認している。		適切な服薬支援を心がけていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防に食材を工夫したり、日中体操やマッサージを施したりと自力で排泄が出来るよう努めている。		個人に適した便秘への対応に取り組んでいきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、入れ歯の手入れは、スタッフが声がけし、一部介助または見守りで行っている。他者には見られないように手入れできるよう配慮している。		一人ひとりの口腔状態を把握し力量に対応したアプローチ方法で清潔感が保持できるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実際摂取した献立を管理栄養士に指導を受けたり健康診断等で栄養状態についても把握できるよう努めている。		今後も日頃の食事・水分摂取量を把握しながら支援していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルが職員の見やすい所に設置してある。基本的には手洗い・マスクの装着の徹底を図っている。		常に職員が感染予防に対する意識を持って実行できるよう工夫したい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキンは毎晩漂白して清潔を心がけている。地理的条件の関係もあり週二回の買い物ではあるが、食材補充時等は必ず冷蔵庫の整理を行っている。		今後も左記の内容に取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先・ロビーには、明るい雰囲気づくりに心がけている。清潔感を演出する生花やプランターを置く工夫をしている。		今後も左記の内容を行っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	料理の香り、心地よい言葉、生花等、五感や季節感を取り入れるよう工夫している。		利用者にとって不快となる因子を考え、居心地よく過ごして頂けるよう工夫していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先・ロビー・リビング等にイスやソファを置き、お独り又は利用者同士でも心地よく過ごせるよう工夫している。		思い思いに過ごせる居場所を工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切に、昔なじんだ家具を取り入れるようにしている。カーテンや壁の色は、落ち着いた色合いの物を使用している。		今後も本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせる居室を工夫していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やトイレには、換気や脱臭が設置されている。リビングには、温度計・湿度計が設置しており、空調への配慮もこまめに行っている。		換気・空調への配慮は職員皆が気配りしながら対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	加齢配慮、ユニバーサルデザインを基本とし、利用者さんが安心して心地よく住んで頂けるような構造になっている。		一人ひとりに対して、安全かつ自立にむけた支援が出来るよう工夫していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱を招くような環境の原因について職員で話し合い、原因の排除や対応策を見出し、行っている。		定期的・臨時に左記の内容を話し合いながら工夫していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日向ぼっこ(外気浴)できるよう心がけている。楽しめるよう花を植えている。洗濯物を取り入れたり、畑(花壇)で活動できる。		今後も利用者が日常的に活動できるよう工夫していきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の気持ちや業務に追われる事がないよう、職員の力量にも配慮し、ゆとりのある状況の中で良好なチームケアを行ってゆける体制づくりをする事が、ホームの雰囲気もご利用者様も安心してくつろげる暮らしを提供できる事につながってゆくのだと考えます。